

丹波市まなびの里づくり協議会小委員会(第5回) 内容まとめ

日 時:令和6年2月2日

場 所:氷上住民センター 第1小会議室

参加者:山内副委員長、松本委員、蔦木委員、小畠課長、足立恵一係長、
山内課長、見田係長、足立大希主査

欠 席:荒木委員、前田係長

協議内容:「生涯学習(まなび)を実践に生かす地域づくりの推進」に向けた取組
について(提言)

【主な提言内容(案)】

①「まなび」を通じた学校・家庭・地域の連携の促進

- ▶学校・家庭・地域の枠を超え、みんなでまなびをつくる「地域教育」の推進
- ▶学校を核とした地域づくりの推進
- ▶地域の生涯学習(まなび)の中心となる自治協議会の

②人づくり・つながりづくり・地域づくりに携わるコーディネーターの役割

- ▶「楽しい」を中心に置いたまなびの場づくりをする。
- ▶自治協議会や学校、NPOなどの多様な主体との連携・協働を促す。
- ▶各自治公民館活動の点検・評価及び伴走支援を行う。
- ▶大人や子どもがともにまなび、育つことができる地域を住民と共に創る。

③社会教育人材のネットワーク構築

- ▶地域学校協働活動推進員、地域コミュニティ活動推進員などの多様な主体との協働
- ▶多様なコーディネーター同士が互いの活動や、課題などを共有できる場

④社会教育人材の養成

- ▶社会教育に関わる人材の養成
- ▶社会教育士(主事)の養成に対するサポート

⑤行政の横断連携による教育支援体制の構築

- ▶教育委員会と首長部局との連携・協働による教育事業の推進

委員・参加者の意見

○提言書内容について

- ・【委員】ウェルビーイングの説明を教育振興基本計画の説明で触れておくべきでは。
「丹波市における経過と現状」について、自治協議会・地域コミュニティ活動推進員の課題について、総合教育会議の資料を添付し、説明が必要ではないか。
- ・【委員】「はじめに」の部分に、「生涯学習(まなび)を実践に生かす地域づくり」と「知識循環型生涯学習による持続可能なまちづくり」の関連性の説明が必要ではないか。
それぞれがバラバラに捉えてはいけない。
- ・【委員】提言の内容を以下の3つに分けることはどうか。
(1)生涯学習(まなび)を地域づくりに生かすために必要なこと
(2)人づくり・つながりづくり・地域づくりに携わるコーディネーター像
(3)行政がやるべきこと
- ・【委員】「地域教育」という言葉の説明が必要ではないか。
「大人も子どもも共にまなび合う」というニュアンスを伝えることが重要。
- ・【委員】確かに「教育」という言葉には子どもを中心にイメージしてしまう。
わかりやすい言葉の方がいい。
- ・【委員】子どもも大人も共にまなび合って、一緒に地域を作っていく。今までの概念に捕らわれず、持続可能な地域を目指してみんなでまなび合っていく新しいキーワードとしての「地域教育」として丹波市は取り組んでいくということが重要。
教育に対する認識を緩やかにしていく。教育が崇高なものになり過ぎている。
- ・【委員】まとめのところで地域教育の考え方を伝えられる方がいい。
これまでの小委員会の議論の中で地域教育が出てきていることを、小委員会の経過のところで簡単に記載しているとわかりやすい。
- ・【委員】子どもも大人も共にまなぶことに「楽しみながら」問う意識が重要だと思う。
- ・【事務局】丹波市や今の生涯学習基本計画では「楽しみながら」について明言していない。
- ・【委員】当初協議会に参加した時は難しいことが多く、楽しめていなかった。そこからたくさんの人と出会いながらまなんでいくことでまなび合いが楽しいイメージになっていった。
- ・【委員】大人も子どもも楽しみながらまなび合うことのイメージを伝えられるようにする。

※小委員会の議論を提言書に反映させ、まなびの里づくり協議会(第1回)に提案する。